

グローバル人材を育成する第九中学校のオリンピック・パラリンピック教育(概要)

基本的な考え方

子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となるかけがえのないレガシーを形成する(次の4つを視点とする)。

- 1 自ら目標をもって自己を肯定し、自らのベストを目指す意欲と態度
- 2 スポーツに親しみ、「知」「徳」「体」の調和の取れた成長
- 3 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚
- 4 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献

都の推進の方向性

【4つのテーマ】

「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」の4つのテーマで推進する。

※ オリンピック・パラリンピックは、世界を結ぶ平和の祭典でもある。

【4つのアクション】

オリンピック・パラリンピック教育を進めるに当たり、「学ぶ(知る)」「観る」「する(体験・交流)」「支える」の4つの視点で取り組みを深めていく。

【留意点】

- ・ 英語を中心とするコミュニケーション能力の育成
- ・ 自尊感情や自己肯定感の向上
- ・ 体力・運動能力の向上
- ・ 「おもてなし」など貢献活動の推進
- ・ 障がい者理解と人権教育の充実 など

オリンピック・パラリンピック教育推進委員会

【目的】 世界最大のスポーツの祭典であるとともに、様々な人や文化を理解し交流する平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックを教材とした有効な教育の在り方を追究する。

【内容】 教育課程への位置付け、具体的な取組の検討、実施及び評価、その他本事業に関すること

【構成】 企画委員会の委員をもって充てる。

戦略1 オリンピック・パラリンピックの精神

【取組1】 オリンピック・パラリンピックの理解

オリンピック・パラリンピックの歴史、オリンピック・パラリンピックの国際社会における価値、支え発展させた人物、オリ・パラ教室等(競技種目や世界記録等の理解)の設置や廊下等での参加国の国旗等の展示 など

【取組2】 オリンピック・パラリンピック選手等との交流体験など

オリンピック・パラリンピック選手との交流(スーパーアクティブスクールとの関連を図る。)、スポーツトレーナー等との交流、オリンピック・パラリンピックを支える体験、ボランティア活動の推進 など

戦略2 運動・スポーツの推進、健康教育の推進

【取組3】 外遊びや運動・スポーツの推進

体育学習の工夫・改善、特色ある学校体育の充実、保幼小中の体系的・継続的指導の充実、部活動の振興、体力・運動能力向上の取組の強化(学校全体での取組)、保幼小中の系統的な指導、地域等との連携によるスポーツの推進 など

【取組4】 健康教育の推進

「早寝・早起き・朝ごはん」の推進、生活習慣・運動習慣の確立、食育の推進、学校・家庭・地域の連携した教育の充実、自尊感情や自己肯定感を高め主体的に生きる態度の育成、リーフレット等による意識啓発 など

戦略3 文化(国際理解教育の推進)

【取組5】 国際感覚の育成

英語を中心とするコミュニケーション能力の育成、異文化理解、生活様式、礼儀・マナー、オリンピックのシンボルマーク、新国立競技場、参加国の国旗や環境・産業等の資料展示、フィンランド等の指定国の研究、留学生等との交流 など

【取組6】 「おもてなし」の推進

日本や地域の特長(魅力等)の理解、日本の「おもてなし」に関する理解、おもてなしの心と態度の育成、東京都教育委員会が行う「おもてなし親善大使」等の参加や「おもてなし体験」の推進 など

戦略4 環境(ESDやバリアフリー等の推進)

【取組7】 ESDの推進

継続的な発展が可能な社会づくり、地球規模の環境教育、自ら課題を発見し思考・判断して未来像を予想し計画する力の育成、ESDに関する発表会やイベント等への参加 など

【取組8】 バリアフリーの推進

心のバリアフリー(道徳教育、人権教育、生活指導等の充実)、物理的環境のバリアフリー体験、ユニバーサルデザインの理解と体験、バリアフリー等に関する発表会やイベント等への参加 など